

ー私立大学環境保全協議会第7回海外研修報告ー

『ベトナム マングローブ管理事務所』

上智大学名誉教授 栗栖 安彦
(株)ハチオウ 星野 裕子

ホーチミン市から約51km南にあり、道路事情もあまり良くなく、3時間を要するというので、昼食(弁当)持参でのバス旅行となった。11時ごろ午前中の見学場所水環境技術研究所を後にした。途中サイゴン河をフェリーで横断し、対岸に渡りまたバスで1時間揺られ、目的地に到着した。途中道路は完成しているとは言えず水たまりなど無数にあり、建設中の橋の橋脚が見られた。

マングローブ管理事務所はカンギョウ(CAN GIO)地方にあり、ベトナムの国旗が掲揚されていた。ニ



ャットさん(Mrs.HA KIM NHAT)の出迎えをうけ、会議室でパワーポイントによる説明を受けた。1960~1970年間の南ベトナム解放民族戦線(ベトコン)との戦いで米軍が枯れ葉剤散布のため海岸や河川領域のマングローブ林の3分の2が破壊された。戦争終結後の1978年7月8日から復元緑化が始められ、12年を要して全体的に植林が行われ、現在ではほぼ完全にマングローブ林が復元されている。この林(管理事務所の近く)には137家族が

住んでおり、サイゴン河をフェリーで森林の保護は現在観光開発会社に委託しているとのことであった。

また、居留地の人達には年間1ha 当り約3000円(7yen=1000VND・ドン)が支給されている。マングローブがもたらす恵みや高波・潮風から人々の生命、財産、田畑、作物を守る自然の防波堤の役割を認知していること、保護するための資金援助を受けているにしても地元の人々の計り知れない努力を感じた。環境教育担当のハンさん(Mr.TRAN TRONG HUNG)の案内でサイゴン河を20人位の乗船定員のボートで約30分マングローブの茂っている川岸の見学を行った。現在は地域を細かく区分けして保護しており、藻類、両生類、爬虫類、哺乳類、鳥類、昆虫などが保全され、薬用植物も育ちまたはちみつなども得られている。2000年9月12日にユネスコ自然保護地区に登録された。水産物はハマグリやブラックタイガーを養殖し、住民は生計をたてている。

管理事務所の仕事として、環境保護の重要性を理解してもらうため、講習会やセミナーを行っているとのことであった。また、観光にも力を入れ、ワニつりなどを考えているとのことであった。約40匹の猿も飼育しているとのことであつた。我々にも顔をみせていた。まだまだ知りたい見たいところが多々あつたが、時間に制約がありそれ以上は無理であつた。

裏庭にあつた鉄塔に登ると360度視界が開けマングローブ林や周囲の景観には目を奪われる素晴らしさは一見の価値があつた。



再生したマングロー